

入善町 議会だより

12月定例議会

No. 60号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会
富山県下新川郡入善町入膳3,255
☎ 0765 (72) 1100

廊下やロビーで
順番待ち▶

湯けむりモウモウの
ふれあい温泉



舟見に湧出した温泉を利用してのデイサービスセンター、地域交流ホーム（愛称「ふれあい温泉」）が完成し、一月十一日にオープン。十二日から三日間の無料開放日には、延べ二千二百人の人が訪ずれる大盛況。有料となった十五日からでも一日平均二百七十人が利用されております。

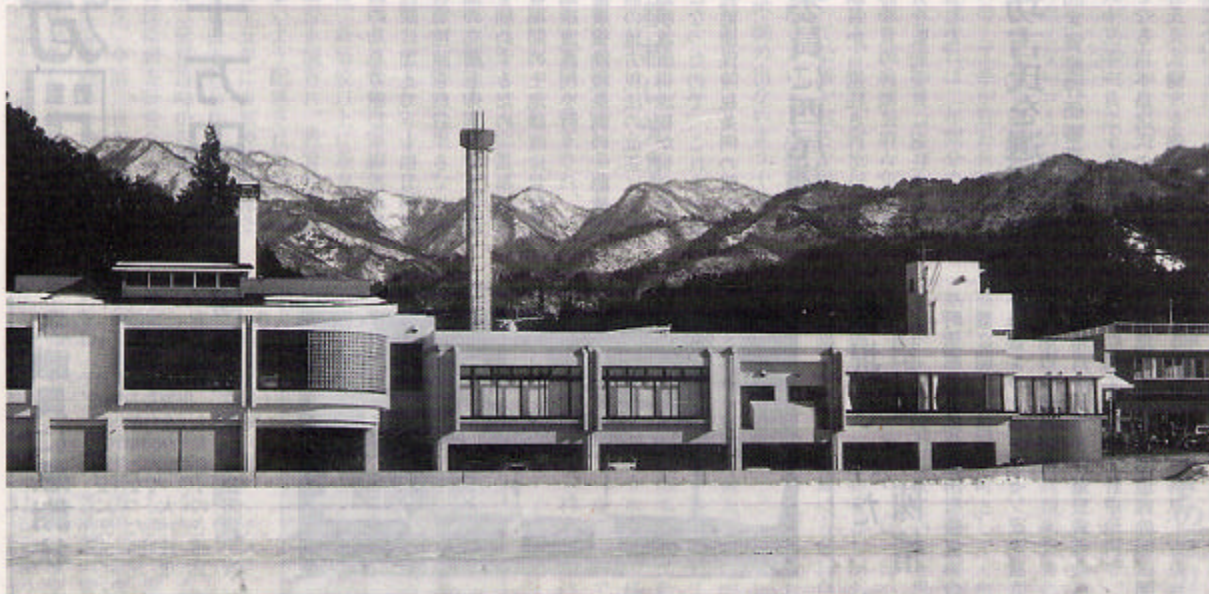
一度はいると肌がすべすべになるとか、腰の痛いのが治ったとか、とにかく大好評です。あなたも一度はいつてみてはいかがですか。

利用時間は午前十時から午後五時まで（冬期間）。月曜日は休館。

いい湯だな

ふれあい温泉オープン

▼完成したデイサービスセンター、地域交流ホーム全景



第17回 12月定例会 会 期 10日間

12月定例会は10日から19日までの会期で開催され、62年度一般会計補正予算など議案6件、請願1件、陳情3件、議員提出議案3件、同意案2件をそれぞれ原案どおり可決・採択しました。

また61年度決算認定については、決算特別委員長審査報告のとおり認定されました。

除雪対策に二千五百万円

海岸保全事業は二千万円

◆◆◆ 議決した主な議案 ◆◆◆

流路67メートル延長

※林道六谷線開設工事の請負契約の一部変更
土捨場内流路工事を当初二十四日計画していたが、土捨場を今年度完成させるため、残りの流路六十七メートルを延長する。諸負金額「三千万円」を「三千八百万円」とした。

※一般会計補正予算(第五号)

今回の補正額は六千五百五十六万九千円で、国庫補助事業の決定と人事院勧告による国家公務員の給与改定に準じての職員給与改定費のほか、除雪対策費などが主な内容。
・人事院勧告の実施に伴う費用 五百五十万円
・海岸保全施設整備事業 一千九百七十万円
・民間除雪機械借上料 二百五十万円
・公共土木施設災害復旧事業 七百九十七万二千円
※国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

人事院勧告に伴う職員給与改定費と高額医療費の増額のため

三千三百七十八千円を追加し、予算総額十二億六千六百二十二万八千円とした。

※簡易水道特別会計補正予算(第二号)

野中地内の四千石用水と下山新用水の泉管かんがい排水事業に関連して、野中簡易水道の水道管百七十八メートルの移設が必要となったので、工事費二百九十四万円を計上し、全額果費負担とした。

※職員給与に関する条例の一部改正

国家公務員の給与改定に準じ、職員の給与を平均一・四七割三千八百四十一円一引き上げた。

※税条例の一部改正

昭和六十三年課税分が個人町民税の所得割の税率のきざみを十三段階から七段階にし、住民負担の軽減と合理化を図る。基礎控除などの人的三控除を二十六万円から二十八万円に引き上げる。

内助の功を考慮し、現在の配偶者控除に加えて、十四万円までの特別控除を創設する。

地価の高騰を抑制し、土地転がしを制約するため、二年以内の所有期間の土地譲渡に対して、超短期譲渡課税を行う。

※国民健康保険税条例の一部改正

今回の地方税法の改正により超短期譲渡所得課税が行われることになったので、これを入善町国民健康保険税条例の附則に加えた。

監査委員に西尾議員

議会議員から選任されていた池原金与志委員の辞職に伴い、西尾三郎議員を監査委員に選任することに同意した。

永松功吉氏を選任

固定資産評価審査委員
昭和六十三年一月二十八日に任期満了となる宮本昌之氏の後任に永松功吉氏(入籍)を選任することに同意した。

五議員に感謝状

十二月議会定例会に先立ち、議員在職十年間となった西尾三郎、池原金与志、大林政雄、若島信行、九里郁子の各議員に対し、町長から感謝状が渡されました。



採択された 請願・陳情

- ◇町道東狐五郎八線消雪装置の設置に関する請願
- ◇入善ショッピングセンター設立に係る支援方陳情
- ◇昭和六十三年町道整備備蓄事業に関する陳情(野中地内)
- ◇町道道市下川原国道線拡幅に関する陳情(道市、柳原、古原地区)

決算特別委員会審査報告

工夫と反省を 次世代の評価を意識

昭和六十一年度の決算審査に当たり、六回に亘って特別委員会を開催し、審査を行った結果、議決の主旨に沿った適正な執行と認め、全委員一致で認定すべきものと決した。

なお、決算審査の過程では白熱した議論を展開しているが、一旦審査が終了するとあとのフォローが当局にも議会にも欠けるさらいがある。今までもこうしてきたから今後もこれでよいという惰性観念がなかつたかを十分に反省し、次世代に生きる人々がどのように評価するかを常に意識しながら、今後の予算編成、予算執行に当たられるよう期待する。

前年比25億円の減

昭和六十一年度の一般会計決算額は五十九億八千三百三十六万円で、町民会館や飯野小学校などの大型箱物建設が続いた前年度に比較して、約二十二億円、二十六、

委員長 松沢孝衛

九割の減額となった。実質単年度収支は七千六百五十四万円の赤字で、数字から見れば健全な財政運営と言えらるが、そのために行政水準が下がることがあつてはならない。厳しい状況下にあつてこそ、限られた予算をどのように有効に使うか、職員が一丸となつて英知をこらして、なお一層の創意と工夫をお願いしたい。

職員研修を強化

世はまさにコンピュータの時代である。町でもワープロやパソコンを導入して事務効率の向上に努力されており、昭和六十一年度地方自治情報センターから電算優良市町村として全国表彰を受けたことは高く評価したい。今後とも職員の研修体制を強化し、さらに自己処理システムの開発に向けての努力を期待する。負担金・補助金については、行政改革の最重要項目にあげられ、逐次改善されてきているが、さら

喜ばれる施設に 地域交流ホーム

本年度から寿楽苑に併設されるデイ・サービスセンター、地域交流ホームの運営にあたっては、町も大きな責任を持つべきであり、協議会の設置や、職員についても現職の課長級を派遣するぐらいの意気込みが必要である。町民に喜んでもらえる施設となるよう万全を期してほしい。

医療費は、ここ数年急上昇しており、老人保健医療特別会計も赤字となつてきている。薬のムダ使いがないか十分にチェックをし、医療間にも協力依頼されたい。

土地改良区 の合併を

転作強化に農民の苦闘が続く中、

来年度はさらに転作上乗せと良質米奨励金の大幅削減が打ち出されてきている。

町のみで対応できる問題ではないが、関係農業団体や生産者団体と十分協議され、今後の進む方向を見出す努力が必要である。各土地改良区では、新たな事業実施に競い合つていくように見受けられるが、農家の負担を考慮し、町の補助金の支出を考えると、新規事業の計画に当たってはもつと慎重に検討すべきであり、強力な行政指導が必要である。そのために各土地改良区の大同合併を指導する必要があるか、ぜひ検討

商店街の活性化を

活力ある町づくりには、町の中心をなす商店街の活性化がぜひとも必要であるが、現状では三十五億円もの地元購買力が町外へ流れていると言われ、他市町に比べて大きく遅れをとつた感がある。社会情勢の変化についての情報を先取りし、商店街活性化のための努力をお願いしたい。

小学校改築を評価 待たれる町史の刊行

上青小に続いて飯野小学校の改築も立派に完了し、財源の厳しい折、学校施設の改善に努力されていることを評価する。残された老朽校舎の環境改善にも引き続き努力をお願いしたい。

入善町史の編纂は、合併三十七周年記念事業として昭和五十七年に着手し、五十九年度で刊行の予定であったが、いまだに資料編一巻しか発行されていない。一日も早く刊行されるよう努力されたい。日本海特有の寄り回り波によって、海岸線一帯は毎年大きな被害を受けている。国の直轄事業で多額の工事が投下されているが、今後とも強力に陳情を重ねられ、海岸保全に万全を期されるようお願いしたい。



▲立派になった農免農道 一木根地内

町政

12月14・15日

7議員が“熱弁”

一般質問



町民の信頼回復を

相次ぐ不祥事

自民党代表質問 白又正司議員

問 町民会館の跡地問題や、役場職員の不祥事が相次いで新聞報道され、町の信用が著しく失墜したことはまことに残念である。来年度から着工予定の駅前中央通り線、入善小学校建設などの大事業が迫っており、町民の協力体制が望めるのか。町長は、この反省に立って、今後いかなる手段方法でこの汚名返上と町民の信頼回復を図るつもりか。

心新たに職務に精励

町長

円滑な行政を進めるに当たり最も大切なことは町民の信頼関係を保持することである。その信頼関係が失墜したことはまことに遺憾である。再びこのようなことの無いよう十分留意したい。なぜこのようなことが起こったかを反省し、再発防止のための検討委員会を作って検討を指示している。とりわけ職員が公務員としての自覚と資質の向上を図るべく、全職員や中堅幹部職員を対象に県から講師を招き研修も行っている。

経営的理念を導入

町長

町政懇談会では各地区から多くの要望を承った。特に、冬を控えて除雪問題の関心が高かった。今議会にも除雪対策の予算補正を願っているが、今後とも万全を期し

され、六十三年度は六十一億円となっているが企業的努力で実質八十億もの効果が発揮される方策がないか。

たい。除雪は、国・県・町それぞれの分担があり、町道四百五十、全部を対象にすることは不可能であるが、道路の利用頻度など総合的に判断し順位をつけて民間業者への協力要請をしている。また、小型除雪機の貸与制度も活用し、行政と町民が一体となった地域ぐるみの除雪が必要である。国、地方とも財政的に厳しい状況にあり、健全財政を保持しながらなお積極的な町政をどのように行うかが大きな問題である。

マイクロバス増車

問

高齢者の生きがいと健康保持のため、ゲートボールや入善町で生まれたウォークベースボールの大会等が自発的に行われているが、高齢者に

民間の発想で相乗効果を

問

毎年実施している町政懇談会を通じて町民の要望を集約されていると思うが、六十三年度予算にどのように反映されるのか、その内容を具体的に示してほしい。また、このたび総合計画の実施計画が示



▶いつでも出動OK！
暖冬で手持ち無沙汰の除雪機械

経営的理念の導入や行政改革も図りながら町民の要望に添えていくことが責務と考えている。行政運営の基本的考えとして最小の経費で最大の効果を上げるよう一層の努力をしたい。

は車の運転ができない者が多くて不参加となることが多い、町有車の運行をできないのか。

総務課長

現在福祉バス、マイクロバス、ワゴン車及びスクールバスの計四台を総務課で集中管理し運行している。福祉バスは老人福祉センターの利用者の送迎として、火・土・日曜を除く毎日、スクールバスは学校の行事や冬期間の児童生徒の送迎、マイクロバスも冬期間のスクールバスとして運行しているのが現状である。

各種団体から運行要請が多くあるが、その需要に応えられないのが実情である。このため来年度予算に増車の方向で予算要求している。ある程度要望に応えられると思う。

学校教育課長

バスの需要は年々増えており、特に学校サイドでは、中学生の各種スポーツ大会の選手輸送、子供たちの町民会館での催し物についてもバスが必要な事が多く、増車されれば緩和されるものと喜んでる。

一人ひとりが生きがい

問

国家の存亡は教育にあるとまで言われる。生涯教育や、学校児童生徒指導のあるべき姿として教育長の抱負を聞きたい。

教育長

臨教審の答申で強調しているこ

とは、個性の重視、生涯学習の体系化、国際化であろうと思う。こうした方針は町の将来像と合致していると考え。本町教育の重点もこの実現を目指す、学校、家庭、社会の連携を強め、地域ぐるみの教育体制によって町民が生涯を通じ学習を進めるよう努力したい。特に家庭教育は、それぞれの家庭で愛情と潤いのある家庭の中に子供が育つよう期待したい。

地域社会と教育については、地域連帯の心を高めることを目指し、地域活動への積極的参加を高めたい。学校教育では、今日の教育が知育偏重、あるいは家庭、社会の変化などの影響で、子供が人間として生きる心のよりどころが弱くなっていると思われる。子供一人ひとりが生きがいを確立し、主体的に生活をつくり出して、いつかは、思いやる心、感謝する心、協力する心、自分で考え実行する心などが育つよう指導したい。

**情報の先取りが大切
考えたい日本農業の立場**

問

今、世界の中の日本農業の立場を真剣に認識し、経営戦略を考えねばならない。そのためには情報や知識の先取りが大切である。以前から北里大学の古谷教授のバイオテク農業の講演依頼を提起しているが連絡しているのか。

先般、農政審議委員の山本文二郎氏の講演があったが、聴講者が

非常に少ない。ピーアールなどをしているのか。

農産物のガット協定の内容、特に二十三条についてどの程度の情報入手しているか。

農業構造改善促進についての法案が検討されているが、内容に重大なものがある。どう思うか。さらに転作問題についても情報があれば聞かせてほしい。

**豊作も喜べない
転作の傾斜配分を主張**

町長

北里大学の古谷氏には東京入善会を通じて依頼しているが、多忙な方で接触できなく残念である。都合がつけば、ご意見を承りたい。ガットの問題は新聞等で大きく取りあげられ、その概要については理解している。この問題は国政上の問題であり、日本農業の前途に重要な立場で解決されるよう祈るとともに推移を見守りたい。

減反については厳しい状況にある。本年も豊作であったが、豊作必ずしも喜べない現状でないだろうか。町としては、機会あることに転作面積の減少や傾斜配分の配慮を主張している。

技術革新の動きに注目

農政課長

情報把握については県や関係機

関を通じ、更に流通過程における消費者の意向も踏まえ努力している。また、将来あるべき姿の革新技術の動きにも注目している。

農業講演会の参加ピーアールは、『広報入善』『農協だより』に掲載

**厳しい国保の運営
70歳以上の加入者が20パー**

清新クラブ代表質問 竹内 壮太 議員

問

昭和六十一年度の医療費動向調査によると、人口の高齢化と医療費の伸びが著しいものになっている。入善町の国保加入者も一段と高齢化が進んで、七十歳以上の方が二十割を超えており、今後の医療費の増大を考えると、きわめて厳しい状況になると思うが、国保財政の見通しはどうか。

厚生省が国保問題審議会に、地方自治体に対して三千三百億円の負担増を求める国保制度の改革案を提示したが、この問題をどのようにとらえているか。

し、街宣車も出して参加を呼びかけたが天候不順等も重なって百名程度であった。せっかくの機会でもあり残念に思っている。今後専門的知識を持つ講師を招き、聴講の機会を設けたい。

**さけてほしい
乱診 乱療
保険税の引き上げが必要**

町長

国保加入者は高齢者や所得の低

人が多いのが特徴である。町でも年々医療費が増大しており、このままでは国保財政がピンチになると心配している。一つの病気で病院を渡り歩いたり、薬がほとんど飲まれないで捨ててあったりすると聞くが、こういうことが医療費の増大となって加入者に跳ね返ってくるので、理解してほしい。

国保制度の改革案は、単に国の負担を軽くして地方に押しつけるもので、全国町村長会でも絶対反対の決議をしている。

環境保健課長

六十二年半分を経過した時点で、医療費は前年対比十六割の伸びに達している。現在、基金一千万円と予備費二千万円を持っているので、このまま推移すれば六十二年度は乗り切れるのではないかと思っている。

六十二年度は保険税を少なくと

も二ヶ台の引き上げが必要である。

町税収入の見込みは

問 六十二年の一般会計予算は当初五十五億円で、その後約五億円補正されているが、ほとんど国県補助金の増額である。町税の補正をされていないが、現在の調定額はどれくらいか。

特別交付税を七千万円計上されているが収入見込みはどうか。
財政調整基金の現在高八億二千万円に対して、年度末見込みはどうか。

八千四百万円の増収

町長

特別交付税は市町村の実態を見て、特別な行政需要があったときに配分されるもので、昨年は一億七千万円だった。今年度も減額にならないように県の方へ充分に働きかけたい。

企画財政課長

町税は当初予算よりも約八千四百万円の増収が期待できる。
例年約三億円の繰越金が出るが今年度もできるだけ節約に努め、例年並の財源を確保したい。このうち当初予算に組み込まれた繰入金、繰越金を差し引くと一億五千万円ぐらいの剰余金が出ると思うので、できる限り財政調整基金の積立てにまわしたい。

新年度予算の骨格を示せ

問

新総合計画では、入善小学校の三か年計画による全面改築十五億五千万円や、中央通り線改良事業四億六千三百万円などが見受けられるが、六十三年の土木町政の政策課題と予算編成の骨格を聞きたい。

職員の新規採用をしないと聞いているが、六十二年度欠員や退職者の補充をどうするのか。

新しい職員は採用しない

町長

職員は毎年何人かがやめ、何人かを採用するという人事のサイクルを確立することが望ましいが、人件費などの義務的経費をできるだけ抑えるために、職員一人ひとりが研修をし、努力することによってカバーしていきたい。

現在四週六体制が試行されているが、そのことよって職員をふやさないと、超過勤務の予算も増額しないとということが前提条件であると受けとめている。

企画財政課長

六十三年の町財政は引き続き厳しい深刻な財政運用を余儀なくされるが、創意と工夫をこらして町民の信頼に応えたい。
入善小学校の改築や中央通り線

の改良、屋内ゲートボール場の建設のほか、町政懇談会で出された道路整備、用排水路改修、除雪対策、教育、農政などの課題についても、限られた財源の中で積極的に対応していきたい。

非核平和都市宣言を

問

ゴルバチョフ書記長とレーガン大統領がINF全廃の調印をされ、さらに核兵器の削減に向けての協議を進める共同声明を発表された。各国首脳もこれを歓迎するコメントを発表しているが、今こそ核廃絶に対する世論の声を一層大きくしなければならぬ。

入善町でも非核平和都市宣言を世界に向けてアピールする機会だと思いが、その意思がないか。

核兵器全廃を期待 議会の決議で採択を

町長

INF中距離核兵器の廃棄が皮切りとなって、将来は核兵器全廃が廃棄されることを期待している。富山県でも婦中町、高岡市、小杉町が平和都市宣言の議決をしており、町でもぜひ宣言すべきだと思っている。

町長が提案するよりも、議会の方で十分論議され、議会の決議として採択されたらどうか。

特定企業に便宜供与

預かり金が諸悪の原因

九里 郁子 議員(共産)

企業誘致には 町の協力が必要

町長

大変町民にご迷惑をかけ監督不行き届きで深く反省している。預かり金の残金については、未解決の問題が少し残っているので早急に解決し、企業の意向も十分しん酌しながら対応していく。

特定企業に便宜を与えるというだけでなく、企業誘致は雇用の問題や財源確保など町の活性化につながり重要である。町がどこまで協力するか、今後十分検討し、枠を出ない範囲で全面的協力すべきだと考えている。

検討委員会を発足

助役

事故再発防止のため保管金取り扱い事務検討委員会を発足させた。今回の事件は一職員のモラルの欠如であり職員の資質を高めたい。また制度に欠ける面もあったのでこれを反省し、職員の資質向上、各種団体の保管金調査の実地、保管金の会計処理の適正指導、新規保管金の審査などを行うこととした。

漁協負担分を町で 雄山丸の修理費

問

救助船「雄山丸」の修理のため一千五百八十万円必要で、この経

職員の不祥事件の温床となった預かり金に対し、どのように反省し、そこからどのような教訓を学んだか。残金の取り扱いは今後どうするか。また、職員の指導をどうするか。
代替地整備など、当然企業がやるべきことを町が代わってやることは、特定のものに特別便宜を図ることにならないか。

費は三市二町と各漁協で負担するということだが、海は漁業の人たちだけでなく、サーフィンやレジャーボート等、海の利用が多様化している。各漁協の負担金はやむを得ず負担するのが妥当でないか。なお、将来の新造船に向けて積み立てを実施する必要がないか。町長

雄山丸の維持管理費は、魚津市七十割、残り三十割を三市二町と関係漁協でそれぞれ責任と受益の範囲で負担してきている。

地方財政法や地方自治法による、負担区分は、その責任と受益の範囲で明確にすべきということになっており、その趣旨を考えれば金額の多少にかかわらず経費の負担区分を明確にすることは大切で、何でも行政で負担する提案は理解できない。また、更新に備えての積み立てについては、主管しているのが魚津市であり、関係市町で検討したい。

国保危機の原因は 国の見込み違い

問 国保財政の危機は、国庫負担率の引き下げと退職者医療制度の国の見込み違いに起因している。これに伴って生じた金額はどれくらいになるか。

国保会計の事務費超過負担はどれだけになっているか。特別調整交付金の実態はどうか。一般会計から国保会計への繰り

入れによって負担が、新川海岸を守る「雄山丸」海難救助船「雄山丸」町長

負担率の変更は、退職者医療制度の実施によって国保の負担も軽くなるだろうとの見込みからだが、実際には国の見込みどおり移行しなかった。試算では一億六千四百万円、うち一億二千三百万円補

未措置分は四千万円ぐらいと考える。事務費の超過負担は、人件費や級地別など、いろいろの要素があつて一概に比較できないが、単純に計算すれば二千万円ぐらいと思う。

特別調整交付金は、低所得者階層に対する保険料軽減費の補てんという形になっており、実際には軽減した額の八十パーセント程度交付される。その他災害など特別事情によるものとして六百万円ぐ



新川海岸を守る「雄山丸」海難救助船「雄山丸」町長

聴覚障害者に ミニファックスを

問 高度聴覚障害者や言語障害者に、ミニファックス設置の補助をする考えがないか。町長

町では手話教室の開設やボランティアによる支援を行っているが、必ずしも十分でない。実態を調査

学校教育の充実度は 教育長の手腕に期待

本多 幸男 議員(清新)

し来年度予算で検討したい。福祉課長

問 中沖知事は日本一の教育県を唱えておられるが、富山県教育界の中核を歩んでこられた教育長の目から見て、教育環境の整備状況や先生方の教育への取り組み姿勢、児童生徒の学力レベルについて、入善町の学校教育の充実度をどのように感じているか。

今後の教育行政執行に当たって学校教育の充実や生涯教育、スポーツ、レクリエーション活動の促進、芸術文化活動など、基本とされる理念を聞かせていただきたい。

教育環境は トップレベル

教育長 明治百年までは教える授業、詰め込みの授業が主流であったが、今日では子供が自ら学ぶ授業、見方、考え方、感じ方、味わい方など、学び方を学ぶ方向に来ている。そのため、校舎の構造もオープン

いのか、機種やネットワークの問題等もあるので、利用者の要望を調査・検討し、その推進に前向きで取り組んでみたい。

スペースが取り入れられているが、県下では三百二十八校のうち福光町の三校と上新川に二校しか整備されていない。入善町では上青小、飯野小に続いて入善小が着工されようとしており、教育環境の整備では先端を切っていると云える。

入善町は県下で一番教員の多い所で、昔からバイタリティやアイディア、ユーモアに富んでいることで有名である。子供は環境に育つと言われており、学力の面でも決して他町村にひけをとっていない。

今後は ソフト面の開発

社会教育の分野では、町民会館を核とした芸術、文化などの生涯教育のほか、生涯スポーツ、地域活動、世代間交流を通じた豊かな生活あるふるさとづくりに意欲が感じられる。

ハード面はある程度充実している

三割が私立高校へ

問 先般発表された県立高校の募集定員は希望する生徒数の七十二・八割となっており、約三割の生徒が私立高校へ行かなければならぬ。

答 教育の機会均等の立場からみても、県立高校へ全員入学できる制度に改革されるよう働きかけるべきでないか。

一人でも多く志望する高校に合格させようと、情報を収集し、努力されている教育現場の先生方に對して、教育委員会として今後どのように指導していくのか。

生徒本人や父兄の希望と大きくかけ離れた場合はどのように対処するのか。

意識改革が必要

教育長 小学校では子供に将来の夢を持たせ、その夢をふくらませることに努めている。中学校では、その夢を大事にしなから、人間としての生き方や人生設計について考えさせ、自ら進路を選択するよう願っている。

現在は、有名高校から一流大学、大企業への就職という社会的風潮があつて、子供の個性や能力、適性と関係なく、有名高校のみに意

識が向けられており、当事者だけでなく社会全体の意識が変わってこなければならぬ。

制度改革については臨教審でも論議されているが、現状の中での充実した進路指導になるためには子供自身の日々の努力と親の理解、教師の指導のあり方にカギがあるのでないかと思う。

過熱化する塾通い

問 富山県内の小学生の十九・八割、中学生の三十三・九割が学習塾に通っているとされているが、入善町でも近年増加の傾向にある。

本来なら学校が行う授業に真剣に取り組んでおれば足りると思うが、ますます過熱化している学習塾をどのように受けとめているか。公教育が親の信頼を失つてきた現われだという声もあるが、どう思うか。

遊びの時間が必要

教育長 学習塾は子供の遊びの時間を奪い、豊かな創造性を養う面や、心身の成長にとって好ましいものではない。

各学校では、一人ひとりの子供の能力・適性に応じた指導をどう展開すればよいか研鑽に励んでいるが、当面の学校、家庭にとって、学校内における子供たちの学習意欲の喚起に努めることが重要な課題だと思ふ。

おけいこ事については、本人の好みや適性、家庭の教育の問題であるが、子供は自然の中で多くの子供たちと共にのびのびとして遊び、子供社会から学ぶということが阻害されない程度のものであってほしい。

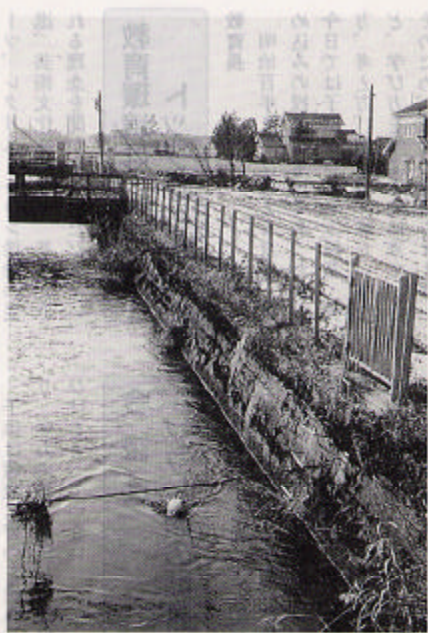
企業誘致に匹敵 大型店舗の建設

早川誠一議員(自民)

問 ビングセンター建設についての構想去や内容等の説明を聞いた。

去る十二月八日に商工会やショッピングセンター建設準備組合の方々と正副議長並びに関係議員との懇談会が開催され、入善シヨツプ

六十年度の商業力指数は富山百二十五、魚津百十一に対し入善は八十一・三で、町から流出する金額



▲危険な有刺鉄線の防護柵
黒東合口用水—新屋地内—

共存共栄できるように 大型店と商店街

町長

町として大型店は、現実の問題として考えていかなければならないが、在来の商店街が衰退することがあってはならない。在来商店街と大型店とが共存共栄できることが必要かと思う。町もできるだけ協力したいと考えている。

富山・魚津・黒部などで大型店建設が続いており、入善町の商業を取り巻く環境はますます厳しくなっている。北陸自動車道の全線開通や国道八号線の二十八号構想、中央通り線の着手などにあわせ、商業圏の拡大、集客力のある商店街づくりが必要である。

大型店を建設するに当たっては、農地転用や用途の一部変更など、多くの問題が発生すると考えられ

るので積極的に協力したい。

危険な有刺鉄線 合口用水の防護柵

問

黒東合口用水路は六十年の歳月を経て、防護柵や浮標、くさり等が老朽化しており、浮標は何十年間ないまま放置されている。沿岸住民は日夜生命の危険を感じ、不利益、不便に耐えており、全く人命を無視した行為である。また、用水で死にされた人たちに、対し何んらかの責任行為もなされていない。

冬にはザイ水がついて損害を与え、小言を言われている町当局は北陸電力に対し強く注意を与えるべきだと思いませんか。

国営黒部川沿岸農業水利事業が行われるに当たり、改善策や要求等を国営機関や北陸電力、町に提出したが満足な回答が出ていない。今必要なのは行政の力だと思ふ。もっと住民の立場に立つて、要望の実現に支援願いたい。

命と利益を守る

町長

防護柵が不完全で誤って用水へ落ちられた方への補償は十分話し合いされるべきだと思ふ。この用水は発電だけでなく農業用水にも利用しているので、防護柵等の問題は一概に北陸電力だけの責任にするのはどうかと思ふ。

今回の改修は国営の事業として行われるので、不安や不利益の起こらないように関係の方々と話し合いをし、町民の命を守る基本的な立場で対処したい。

建設課長

北陸電力が管理している部分で不備な点については、十分見回りをしていただくよう早速申し入れしたい。

全校で米飯給食を

問

米の消費拡大の一端として国では学校米飯給食率のアップを決めたと聞いているが、入善町での実施状況はどのようになっているか。わずかの米であっても、学校の子供や親が一緒になって自分たちの作った米を食べ、農村から消費拡大に努力すべきだと考える。入善町の全校が直ちに米飯給食を行うことが必要だと思ふがどうか。

県下でトップクラス

町長

米の消費拡大等については関心を強く持っている。しかし、食嗜好が変化してきており、主食を米だけという固定観念を変えざるを得ないのが実態である。

農家自身の消費を拡大することが、給食の回数をふやすことよりも量的に非常に大きいのではないかと。基本的には回数をふやすことは賛成であるが、子供たちに無理

に押しつけるのもどうかと思ふので、し好調査等を行い考えたい。

学校教育課長

町内の小中学校の給食は週五回、そのうち五回とも米飯給食は四校、四回は二校、三回は五校、平均で三・九回となっており、県平均二・八回、全国平均二・二回と比べて

近隣市町なみに軽減を 消雪装置の地元負担金

板川清治議員(自民)

問

昭和五十二年からの十一年間に町道と県道あわせて三万坪の消雪装置が設置され、着々と無雪害まわづくりが進んでいる。ここから地元負担となっている工事費の二十割、電気料百割を近隣市町なみに軽減する考えはないか。

幹線道路は交通量も多く、通勤通学や産業道路として利用されており、地元ばかりで負担するのも問題があると思ふ。場所によってはゼロにしたり、軽減したりする必要があると思ふがどうか。

負担ゼロは疑問 電気料は段階的に軽減

町長

消雪については各地区から要望が多い。県では地下水による消雪

は極力避け、表流水による消雪方法を取り入れている。

町では地下水に恵まれているがある程度の規制は必要で、機械でできる所は機械除雪の体制を堅持していきたい。

道路法には、道路に関する工事について、その利益を受ける限度内で費用の一部を負担させることができると定められており、町の財源その他からみても地元負担金をゼロにするのは問題があると思ふ。電気料については段階的に町で負担していくように検討したい。

現状にマッチしない 条例・規則の見直しを

問

町の条例、規則、要綱等は町の憲法とも言うべきものだが、現状にマッチしないもの、有名無実のもの、条例どおり行われていないものがある。

地方財政法では、地方公共団体の徴収金はすべて条例で定めなければならないことになっているが、消雪工事費の二十割は要綱で定めであり、補装工事費の十割負担は要綱にもっていない。

条例化していないものを徴収することに問題があるので、負担割合の明確化のためにもきちんとすべきだと思ふがどうか。

念査して対応する

町長



威力を発揮する市街地の消雪
—入善13区—

町の条例や規則等の中には、もうすでに実態と合わなくなったものや部分的に見直しをしなければならぬものがあるようである。時代の推移にマッチしないような問題については十分に念査し、対応したい。

建設課長
消雪装置の設置及び管理規定については、受益を受ける範囲を特定するのが難しいので、思案しながら現在に至っている状況である。県下の実態を十分に調査し、研究したい。

十年間の用途指定 国鉄払い下げの駅前用地

広瀬義孝議員(自民)

助役

問
長年の懸案であった中央通り線が、県営事業として着工されることになったが、町の守備範囲は工事費の四分の一負担のほかにとどのようなるものがあるか。また今の段階で代替地の必要面積はどれくらいになるか。

答
県営事業ではあるが、代替地の確保をはじめとして、補助対象外の用地や物件の補償、残地の処理などは町単独で処理しなければならぬ。

神奈川県の茅ヶ崎市で、国鉄から公共建物を建てる条件で払い下げを受けた用地を、都市計画事業の代替地としたのに対して、清算事業団が契約違反として訴訟に踏み切ったと報道されている。入善町でも昨年駅前用地の払い下げを受けているが、この土地は都市計画の代替地にてきるのか。契約内容はどのようになっているか。

代替地の確保が力ギ

答
物件の移転や代替地の確保がこの事業の推進を左右するカギとなるので、地元の関係者の協力が大切である。現在保有している元警察署跡地・中央公民館跡地・中央駐車場・国鉄から払い下げを受けた駅前用地の一部を加えても代替地としては不足するので、町有地以外でも代替地の選定、あっせんをしていかなければならない。

という用途指定を受けている。今後J・Rと早急にこの条項の変更について協議したい。

計画が確定すれば 用途変更の協議

企画財政課長

市計画中央通り線の代替地として充てることを強く主張していたが、着工の時期や必要面積などが不明確だったため、用途指定の中に盛り込めなかった。このため契約書の第十五条には、この契約に定められていないことや、問題が起きたときは、甲乙が協議して定めるといった事項を入れ双方が確認している。事業の見通しや土地利用計画などが確定した段階で、J・Rあるいは清算事業団と用途変更の協議を行いたい。

六十三年は評価替え

問

昭和六十三年度は固定資産の評価替えの年度に当たりますが、自治省や東京都では異常な地価高騰分を評価からカットする方針と聞いている。

入善町では、土地や家屋の評価はどのような基準、姿勢で臨まれるのか。この評価に対し、自治省や県から特別な指示がきているのか。また土地の評価は下がるとはないうと思うが、税へのはね返りをどのように見込んでおられるか。

地価上昇地は配慮

税課課長

昭和六十三年度を基準年度とする固定資産税の評価替えについては、自治省や県の指導を受けながら、現在その作業を鋭意進めており、適正で均衡ある評価に努力している。

評価替えに当たっては、今回から不動産鑑定士に鑑定してもらい、これをベースとして、精通者からの聞き取りや現地調査を行っている。宅地については、中町線完了による入善六区と君島山寺線の連続地点、町民会館周辺、団地の開発された所などの地価が上昇しており、税負担の配慮が必要と思う。農地については、等級格差の縮小と生産者未償の引き下げや、農業経営の条件悪化を配慮したい。

入善高校を 地域のセンターに

問

文部省の資料によると学用品や通学費、塾などに親が昨年度一年間に支払った、子供一人当たりの教育費総額は、公立小学校では十七万八千円、中学校で二十一万九千円、高等学校で二十八万四千円にのぼっている。また家庭教師、学習塾などは十年前に比べて二倍以上になっている。

教育、受験などの費用がかさみ、加熱する塾などの教育実態を見る

とき、学校教育とは何か、入善町の教育指針を示してほしい。子供たちは絶えず競争させられ、高校の受験は点数で振り分けられている。入善高校へ行きたくても、卒業生の四分の一もはいれないと聞いている。入善高校が真に地域の教育センターとなるように、学級増や小学区制の復活について教育長の考えを聞きたい。

進路決定は 中学よりも高校で

教育長

家庭教師に勉強を見てもらっている子供は、本町において小学生約〇・三割、中学生二・一割で、塾に比べれば少ないが、正常な状態ではないので、今後個別学習の徹底や補習指導の充実によって解消していくべきと考えている。

入善高校は六十年度に普通科が二学級増設され、入学難がやや緩和されてきたが、高校進学率が年々上昇し、今や高校全員入学のような状況にあるので、今後とも学級増を県当局へ働きかけていく必要がある。

入善八十一年時代を迎え、中学三年で自分の進路を決めるといふことは非常に厳しい。高校三年間で決める方がよいのではないかと個人的には思っている。

現在国の方でも学区制の問題について検討しており、この動きや県の考え方等についても勉強していきたい。

沖縄視察記

21世紀のリゾート基地 国際文化都市をめざす

総務常任委員長 野坂俊一 議員

35野が米軍基地
 当市は太平洋戦争末期に連合軍が上陸し、激戦の結果廃墟と化した所で、四十二年過ぎた今日も面積の三十五野が米軍基地となっている。しかも市域の中央部が接収されてドーナツ型となっている

十一月十一日、町議会議員一行は沖縄の県都那覇市周辺で飛躍的發展を遂げている豊見城村、宜野湾市の行政視察を行ったが、特に感銘を受けた宜野湾市の状況について報告したい。

ため、政治、経済、文化、教育のすべての面で大きな支障になり、その上、航空機の危険、騒音公害も見逃せない。
 このような悪条件を克服しながら、桃原市長はじめ七万一千人の市民が一致協力して国際文化都市の建設に情熱を傾けている姿は実に立派で、大いに見習うべきものがあった。



展示された資料をメモ

宜野湾市役所で

40野の埋立て 海浜公園を造成

沖縄の新しい行政センター都市をめざしている当市では、昭和五十八、五十九年度で海浜四十野を埋立し、さらに米軍基地の一部返還を利用して、第四十二回海邦国体の野球、バスケットボール、アーチェリーの競技会場のほか、公共マリーナ、人工ビーチからなる海浜公園を造成した。
 また、このメイン施設として沖縄コンベンションセンター（県民

会館）を誘致し、各種の国際会議や国際見本市、国際交流の会場としての機能を備えた、まさに二十一世紀のリゾートとして整備が進められている。
 団体の開催や国際化の進展に伴うタイミンタを見事にキャッチして、多額の国庫資金を引き出してくる行政手腕はすばらしいものがある。

人口急増で 環境整備が急務

那覇市のベッドタウン的な当市は、昭和四十年の三万五千人から六十二年には七万一千二百人に急増している。このため、住宅建設は市の財源では賄いきれず、民間資本の導入に力をいれていることが注目された。
 また沖縄は、降雨量が多いものの、河川が短いため貯水能力が少ないので、上水道事業には十二億五千万円の国庫補助事業で、全市を五区に分割して配水網整備を行い、六十年で完成している。なお下水道の整備率は三十野だが、水洗化普及率は八十二・五野にもなっていた。

当市の子算状況は、自主財源が三十四・八野、依存財源六五・二野で、入善町と同じような形態にありながら、これだけの事業を進めていることに着目し、研究してみることがある。

二大学を誘致し 新しい文化の創造

近年、国立琉球大学と沖縄国際大学が移転誘致され、このために市街地開発や人口増が進み、環境の悪化が懸念されている。
 一方では、大学の知性・若いエネルギーと、市民の文化・地域エネルギーの調和を図りながら、創意に満ちた人間性豊かなまちづくりに努力されている。

また、台湾の虎尾鎮農会との姉妹農協や、宮崎県東郷町との姉妹都市の締結など、産業文化の友好交流に力を注ぎ、国際感覚の養成に努めている。

恵まれた入善町

視察を通じて多くの教訓を学んできたが、振り返ってみれば入善町にも町としての長所が数多くあることをあらためて感じさせられた。今後とも恵まれた郷土に住むことに誇りを持ちながら、三万町民のニーズを把握し、より良い入善町の建設に微力を捧げたい。



勇壮な沖縄コンベンションセンターを視察

中国訪問記

四千年の歴史の重み

雄大なスケールに感動

竹内 壮太 議員

十月四日から十月十三日までの十日間の旅程による富山県日中友好議員連盟主催の訪中団に参加した感想を述べたい。

団員構成は河合県議を団長として県議五名、富山市議三名、高岡市議二名、新湊市議一名、五箇山三村の議長三名、随員として県議会議事務局二名、通訳一名と私を合せて一行十七名で中国各地を表敬訪問し、併せて中国要人と会談してきた。

汗する者が報われる社会に

北京では、中日友好協会副会長黃世民氏と会見した際に、富山県の先人である松村謙三先生との交遊関係に触れられながら、現在の中国と日本の関係についての問題点を説明された。

東芝のココム違反事件が中国建設五か年計画に与える影響や光華寮問題における中国と台湾、日本政府の処置のあり方について、ま

た、中国残留孤児の中国人民政府の処置などを述べられ、これからの中国は社会主義国家の建設を目標にしながら、発展する日本を見習わなければならない。日本の企業の経営管理や農業問題に対応する農業協同組合の良い面をどんどん取り入れて、競争の原理を採用する。したがって、自由営業を認めつつ地場産業の育成を図り、汗する者が報われる社会を作りたい。そのために生ずる倒産とか労働者の解雇も時には止むを得ない。窓から新鮮な空気を入れた場合、多少のゴミが交じるのも止むを得ないが、ゴミを取り除くためのチエックは厳重にしなければならぬ。と、二十一世紀に向けての十億人民を代表する固い決意であった。

スポーツ・文化の友好交流を

次に富山県と友好関係にある遼寧省を訪問した。

瀋陽では人民大会の代表張鉄軍氏、人民政府副省長左現氏とお会いし、解放経済による建設と、より平和な社会を作るために、スポーツ・文化・経済などあらゆる機会をとらえて友好を深めたいとのことであった。

遼寧大学では、富山大学との教授や留学生の相互交流促進について話し合いをし、現地においての中瀋富大教授にお会いした。黒龍江省ではハルビン市内の工場を見学し、生産量の目標は割り当てによるものか、自主的に策定するのか、価格の決定はだれがす

るのか、輸出入が可能なのかなどを討議した。

果てしなく続くトウモロコシ畑

テレビで放映された「シルクロード」などで北京市内の自転車風景や天安門前広場はよくご承知のとおり、中国四千年の歴史の重みを肌で感じ、言葉には言い尽くせない雄大さを感じた。たまたま瀋陽からハルビンまでは鉄道（旧満鉄）で行くことになり、日本人のセールスマン、中国の労働者、老



▲天安門前広場で記念撮影

兵（軍隊の幹部）の方々と入り混じって同行した。車窓から果てしなく続くトウモロコシの収穫光景は、千作業者による刈取り、それを運ぶ二頭だての荷馬車、そして時折り見える農家集落。これが十時間有るかけた車窓の風景で、どれだけ走っても、どれだけ時間をかけても変わらない。ただただ、これが「大陸」であるとしか言いようがなく、その雄大さに感動を覚えると共にトウモロコシの収穫は年内に終わるのだろうかと思わぬ心配もしていた。

強大なエネルギー

現代日本と中国を比較すると、総じて中国は二、三十年遅れているかなと感じたが、北京でのビル建設ラッシュに見られるように、中国十億のエネルギーは強大であり、スポーツ・文化・経済の面で問もなく日本をしのぐのではないかと、勢いと熱いものが感じられた。

やがて来るであろう日本海時代の基盤づくりのために、あらゆる機関をとおして官民一体となった友好交流を深めるべきだと、の意を深く抱いた次第です。機会を与えていただいた関係の方々に厚く御礼を申し上げます。

常任委員会・審査のあらまし



全案件に賛成 補助金の獲得に努力を

今回の一般会計の補正は、国県補助事業の決定と人勸に伴う給与改定、除雪対策等に合計六千五百五十六万九千円を増額するものである。

この財源となる歳入は、国県支出金をあわせて二千二百五十六万六千円、寄付金百七十万円、町債二百三十万四千円、繰越金から三千九百三十一万四千円があげられている。

国の内需拡大策に伴って海岸保全事業が増額となっているが、単なる水路整備事業や林道開設事業が減額となっている。これらは、いずれも高率の補助事業であり、今後とも補助金の獲得に努力されたい。

基準を決めて継続

議員の海外研修補助
歳出のうち、日中友好議員連盟

主催の中国派遣参加費の二分の一補助は他市町の例と比較してみても最低額の補助だと思ふ。一回ごとに補助額を決めるのではなく、一定の基準を設定し、今後とも継続されるよう希望する。

消防費のB型肝炎の検査及び予防接種については、B型肝炎が全国で問題になっているときであり、適切な措置だと思ふ。

職員にやる気を

町職員の給与の現状は、国家公務員と比較してのラスバイレス指数は九十九・一、平均給与は県下二十一番目、特に中堅層や女子職員が低いと聞いている。不平不満があつては良い仕事もできないと思ふので、これらの是正とあわせて、職員にやる気をおこさせるような方策を考えていただきたい。

税条例の一部改正は、臨時国会において「税率の引き下げ」「基礎控除など人的三控除の引き上げ」「内助の功の設置」「土地ころがしの規制」の四つを盛り込んだ地方税法改正案が可決されたことによつて、町条例も改正するものの特に関心はない。ただし一部の委員から、公約違反のマル優廃止を前提としており、減税額も極めて少なく、国民の要求とは、ほど遠いものであるという立場から、こ

の条例には反対であるという意見が出されていた。

国民健康保険税条例の一部改正については地方税法の改正に基づくもので、特に問題はない。



ヒットした 生ゴミ処理器

一般会計補正予算の当委員会への付託部分は三百三十五万二千円の減額となっている。

これは主として人事院勧告による給与改定に伴うもので、給与費の減については、当初予算計上後の人事異動によつて中堅職員から若手に切り替わったための減額である。なお臨時職員の賃金についても若干引き上げられているが、長期に亘つて勤務している者もいるので、この対応についても配慮されたい。

環境衛生の向上のために、生ゴミ処理器とゴミステーション設置補助が追加されているが、特に生ゴミ処理器は六十二年度の新規事

業として取り組まれ、予想をはるかに上回る要望があつたことは、ゴミのないきれいな町づくりに大きな成果があつたことと高く評価する。

一方、燃えないゴミの対応については、今年度予算で隣接地を買収して埋め替え工事が行われている。これが完成すれば二年間分の容量が確保されるというのだが、ゴミの絶対量を減らす努力が何よりも肝要である。また、附近民は埋立てによつて公害が起きないかを非常に心配している。迷惑施設であり不平不満の出ないよう十分な配慮を願いたい。

未改築校に光を

入善小学校の基本設計委託料として二百六十万円が補正され、いよいよ着工に向つて第一歩を踏み出したということで大変喜ばしい。建物の配置や機能の充実など、将来を考えながら悔いの残らないよう最大の努力をされるよう念願する。なお残された未改築の学校については、新築校以上に教育機器の導入改善を図られ、教育格差のおこらないよう配慮されたい。

昭和五十五年に吉原沖で発見された世界最古といわれる海底林については、発見当時から富山大学の藤井教授に調査研究をしていただいており、今回、長年の研究のまとめとして海底林の本を出版されることになり、町にとつても大変うれしいことである。

医療費はうなぎのぼり

国民健康保険特別会計の補正予算は、三千三百七十七万八千円で、人勸に基づく給与の改定分六十六万八千円のほかは、高額療養費の増高によるものである。医療費の高騰を防ぐために、町としても病気の予防や早期発見、早期治療のピーアールに努力されていると思ふが、ゴミ箱に薬のいっばいはいつた袋が捨てられていることがあると聞くので、医療側にも余計な薬を渡さないよう強力に申し入れをしていただきたい。

簡易水道特別会計補正予算については、県管かんばい事業として行われている四千石用水と下山新用水の改修工事に伴う水道管の移設工事を行うもので、全額県費で賄われるものであり、特に問題はない。



副離岸堤を設置

一般会計補正予算のうち、当委員会に付託された主なものは、海岸保全事業の一千九百万円、除雪対策費二千五百万円、災害復旧費七百九十万円で、その他給与改定費と事業執行過程における予算の

組み替えに関するものである。海岸保全事業には、二千百万円の国庫補助金が追加され、副離岸堤設置のために三十、ブロック三十五個と二百枚のふとん籠を作成し、六十三年度に新設されるが、金額国庫補助金で賄われる大差ありがたいものである。今後とも強力な陳情を重ねられ海岸保全に万全を期されたい。

県道拡充に期成同盟会

十一月末に黒部朝日公園線改良促進期成同盟会と新黒部大橋建設期成同盟会の二つの同盟会が結成された。黒部朝日公園線は未改良部分が多くあり、あわせて権蔵橋の拡幅かけかえについて強力な運動を進めるものである。

新黒部大橋の建設については、国道八号線と下黒部橋の間にこの橋ができれば、国道八号線の交通緩和と黒部市との相互交流に大きなメリットがあり、黒部市とも力を合わせて強力な運動を展開された。

今回の補正では、用地交渉が難行しているために、用地買収費を減額して工事費に組み替えるケースがめだつた。用地交渉の難しさは充分理解できるが、延ばしたからといって解決できるものではないので、なお一層の努力をお願いしたい。

町道東孤五郎八線消雪装置の設置に関する請願については、沿線に保育所や学校があり、飯野地内の主要幹線道路であるので財政多

端の折とは思いますが優先的に取り計らわれない。

中心街との競合が心配 入善ショッピングセンター

入善町には大型店舗がないため多くの消費者が町外へ流れており、活力ある町づくりに大きな遅れをとっている。今回、商店街の有志が大型店設置準備組合を結成されたの陳情であるが、非常に大きな難しい問題である。町の活性化にとって大型店舗はぜひとも必要であり、趣旨には全面的に賛同するが、一方で後に残された既存の商店街がさびれるようではいけない。準備組合と充分に話し合いをされ、その結果をふまえながら慎重に検討されることを期待する。

議会

日誌

11月

- 17日 興東地区町村議会議長会研修会 (石川県)
- 18日 全国議長会 (東京都)
- 18日 県町村会総会 (富山市)
- 19日 全国豪雪大会 (東京都)
- 19日 決算特別委員会先進地調査

12月

- 20日 地方自治法施行四十周年自治制公布百周年記念式典 (石川県)
- 22日 関西入善会 (大阪府)
- 24日 総務委員協議会 (東京都)
- 25日 県町村議会議長会理事会 (富山市)
- 26日 黒部川治水同盟中央陳情 (東京都)
- 27日 決算特別委員会 (東京都)
- 30日 新黒部大橋建設促進期成同盟会設立総会 (黒部市)
- 30日 主要地方道黒部朝日公園線改良促進期成同盟会設立総会 (黒部市)
- 2日 都市計画特別委員会
- 3日 公民館長と語る会
- 3日 国保運営協議会
- 4日 議会運営委員会
- 8日 ショッピングセンター懇談会
- 9日 PTA教育懇談会
- 10日 議員全員協議会
- 10日 第十七回議会定例会 (提案理由説明)
- 11日 議会運営委員会
- 13日 青年議会
- 14日 議会定例会 (一般質問)
- 15日 議会定例会 (一般質問、質疑、各常任委員会付託)
- 16日 総務常任委員会

1月

- 17日 文教厚生常任委員会
- 18日 産業建設常任委員会
- 19日 議会定例会 (各委員長報告、質疑、討論、採決)
- 23日 北陸新幹線着工実現総決起大会、整備新幹線着工実現総決起大会 (東京都)
- 24日 地域交流ホーム運営委員会
- 26日 新川広域協議会 (魚津市)
- 28日 秋務納め
- 29日 消防年末警戒激勦
- 4日 秋務始め
- 5日 新春を寿ぐ会
- 6日 消防出初め式
- 10日 大漁祈願祭
- 11日 テイサービスセンター、地域交流ホーム竣工式
- 12日 教育懇談会
- 13日 県町村議会議長会役員会
- 14日 小摺戸保育所竣工式 (石川県)
- 15日 成人式
- 20日 議会運営委員会
- 27日 六十三年度重点要望事項打合せ会 (富山市)
- 3日 議会だより編集委員会

2月

編集後記

○「思いやる心、感謝する心、協力する心、自分で考え実行する心などが育つよう指導したい。私は今までの自分の経験を生かし、今後ふるさとへの愛情を教育施策に実現しようと考えております。……」

十二月定例会の一般質問では十月九日に就任された窪野康則新教育長に対して、その抱負や教育に対する基本的な考えなどに質問が集中しました。富山県教育界の中核を歩んで来られただけあって、その答弁はさすがなもの、今後の活躍が期待されます。

○全国で過去最高の三十九万六千人の志望者があった国公立大学の共通一次試験も終わり、この後は二次試験や私立大学、高校の入試が待ち受けています。入試は人生の岐路の一つとも言われており、受験生を持つ親は夜も眠れない思いをしていると聞きます。見事難関を突破され、志望校に入学できますよう祈りたいものです。

- 議会だより編集委員
- 大林 政雄 早川 誠一
 - 若島 信行 岡島松太郎
 - 野坂 俊一 広瀬 義孝
 - 佐藤 学英 本多 幸男